

## 岩手県 復興教育支援事業（研修支援部門）

本事業では岩手県で実施する研修を、岩手県総合教育センター・岩手県沿岸部を中心に文科省委託（無料）で行っています。交通費・宿泊費・講演料等は、一切かかりません。

講師陣は、下記の9名で34講座を準備しています。他にも研修テーマに応じて、他の講師も派遣しています。予算枠と各講師のスケジュール等を調整し実施します。なお、今後は岩手県で開催される校内研修も含め、様々な研修に対応できるようにしていきます。申込みは次の通りです。是非とも、ご活用をお願いいたします。

申込み先	一般社団法人 学校心理士認定運営機構
住所	〒113-0033 東京都文京区本郷 2-27-2 東真ビル 6F
TEL	03-3818-1554 （受付時間：月～金曜日の10:00～18:00）
FAX	03-3818-1588
e-mail	office@gakkoushinrishi.jp

講師名	所属	No	講座名
大野 精一	日本教育 大学院大学	1	学校におけるカウンセリングとコンサルテーションの考え方と実際
		2	学校教育相談の考え方と進め方
		3	カウンセリング実習
藤原 忠雄	兵庫教育大学	4	教師のためのストレスマネジメント
		5	ストレスと付き合い上手になろう！ーストレスマネジメント入門ー
		6	学校で使えるリラクゼーション技法
		7	こころとからだをゆるめよう！
		8	学校心理学概説
		9	児童生徒理解
西山 久子	福岡教育大学	10	学校適応を支える体制づくりの実際
		11	学校でのピア・サポートの取り組みー温かい学校風土づくりに向けて
		12	チーム援助を活用したケーススタディ
		13	機能的な教育相談につながる相談室づくり
田邊 昭雄	千葉県立船橋北 高等学校	14	カウンセリング面接・傾聴講座
		15	気づきのトレーニング・気づきのレッスン
		16	グループワーク学習の実際
		17	ピア・サポートの理論と実際 ・ピア・サポートトレーニング
今西 一仁	高知県心の教育 センター	18	子どもと教師との関係性の理解を通じたかかわりの心理学
		19	校内支援体制づくりの理論と実際
		20	Q-U、アセスによるアセスメントを用いた学級集団づくり
		21	学校で使えるカウンセリングスキル
		22	学校における進路支援の理論と実際（主に中学・高等学校対象）
都丸けい子	平成国際大学	23	援助者のストレスとその対処
		24	子どもの気になる行動への関わり方ーアセスメントのポイントー
		25	トラウマの心理教育
		26	日々の教育実践で役立つカウンセリング技法
金山 健一	県立広島大学	27	明日からすぐ使える生徒指導の技
		28	心理教育による「いじめ防止プログラム」
		29	校内研修で使える不登校・非行の事例検討法
		30	最新、子どものインターネット・携帯電話問題
中原 美恵	東洋大学	31	みんなで語って、次の一步を考える
		32	養育困難家庭とその支援 ー子どもの育ちを守るためにー
小嶋 まき	八戸大学	33	面接の仕方ー解決志向的アプローチー
		34	構成的グループエンカウンター

大野精一	日本教育大学院大学 教授	学校心理士スーパーバイザー (CSP-SV)
講師紹介  	<p>&lt;プロフィール&gt;  昭和 23(1948)年1月千葉県船橋市湊町(漁師町)生まれ。  昭和 46(1971)年 4 月から平成 18(2006)年 3 月まで都立高校6校 35 年間の高校教諭キャリア(社会科・生徒指導、教育相談)を経て、定年 2 年前の平成 18(2006)年 4 月に新設の日本教育大学院大学(学部を持たない大学院だけの大学で、学校教育研究科学校教育専攻専門職学位課程)に文部科学省大学設置審議会の教員審査を受けて転職。  現在、日本教育大学院大学教授(学校教育相談研究)、日本学校心理学会副理事長、一般社団法人学校心理士認定運営機構理事(事務局長)、日本学校心理士会役員常任幹事、日本学校心理士会「東日本大震災子ども・学校支援チーム」事務局長等を勤めている。</p> <p>&lt;著作等&gt;  ・『学校教育相談—理論化の試み』『学校教育相談—具体化の試み』  (単著、1996・1997年刊)  ・『学校教育相談の実践を読み解く—体系化に向けて—』  (連載論文、「月刊学校教育相談」2003 年4月号～ 2006 年3月号)等</p>	
・カウンセリング ・コンサルテーション	<p>&lt;講座名&gt; : <b>学校におけるカウンセリングとコンサルテーションの考え方と実際</b></p> <p>学校という場面でのカウンセリングとコンサルテーションの異同等に注目し、カウンセリングとコンサルテーションの基礎的な考え方を理解し、カウンセリングとコンサルテーションそれぞれの実習を行うことで、先生方の協働や子どもたちや保護者の方々等への対応をより効果的に行うことができるようにする。</p>	
・学校教育相談	<p>&lt;講座名&gt; : <b>学校教育相談の考え方と進め方</b></p> <p>教育相談コーディネーターとして学校における教育相談活動を推進していくために必要な全体像(考え方)とその具体的な手順(進め方)を、双方向的な議論を中核とする講義で明らかにし、さらに必要な実習も合わせて行う。</p>	
・カウンセリング ・傾聴 ・理解 ・問題解決	<p>&lt;講座名&gt; : <b>カウンセリング実習</b></p> <p>教育活動の基礎は人と人のかかわり作りに基づくものであるが、その基礎はカウンセリングにおける傾聴や理解、問題解決等にある。MLT (新マイクロ・ラバトリー・トレーニング) と呼ばれる小集団を活用した実習で、これらの能力を獲得する。</p>	

藤原忠雄	兵庫教育大学 教授	学校心理士、自律訓練法認定士、 スポーツメンタルトレーニング指導士
<p>講師紹介</p> 	<p>&lt;プロフィール&gt;</p> <p>昭和 33 (1958) 年岡山県倉敷市生まれ。 昭和 56 (1981) 年 4 月から平成 19 (2007) 年 8 月までの岡山県内公立高校・養護学校及び県教育センター（教育相談部）での 26 年 5 か月間の勤務を経て、国立大学法人兵庫教育大学大学院学校教育研究科准教授として転職し、平成 24 (2012) 年 4 月より同教授。</p> <p>日本ストレスマネジメント学会常任理事、日本学校メンタルヘルス学会評議員、日本自律訓練学会評議員、一般社団法人学校心理士認定運営機構資格認定委員等を勤めている。</p> <p>&lt;著作等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『学校で使える 5 つのリラクゼーション技法』（単著、2006 年）</li> <li>・『図で読む心理学生徒指導・教育相談 改訂版』（共著、2010 年）等、</li> <li>・『教師のストレスに関する探索的研究―性、年代、校種における差異の検討―』（2009 年）、『高等学校教師におけるストレス構造の解明―バーンアウト予防のための提言―』（2011 年）等。</li> </ul>	
<p>（一般教師対象）</p> <p>・ストレスマネジメント</p> <p>・メンタルヘルス</p>	<p>&lt;講座名&gt; : 教師のためのストレスマネジメント</p> <p>心理臨床の切り口（例えば、トラウマ支援）ではなく、健康志向（心理的健康の向上を目指す）の切り口からストレスマネジメントの理論と実際を学ぶ。リラクゼーション体験をベースに、ストレスと付き合い上手になるためのストレス理解と自身のストレスへの気づきに関するレクチャと演習を行う。</p>	
<p>（児童生徒対象）</p> <p>・ストレスマネジメント教育</p>	<p>&lt;講座名&gt; : ストレスと付き合い上手になろう！―ストレスマネジメント入門―</p> <p>被災体験ではなく、日常の苛々事に焦点を当て、ストレスと付き合い上手になるための理論と実際を学ぶ。ストレスに関する最低限の知識を修め、自らのストレスに気づき、その対処法を上げるとともに、日々活用できるようになることを目標とする。</p>	
<p>（一般教師対象）</p> <p>・ストレスマネジメント教育</p>	<p>&lt;講座名&gt; : 学校で使えるリラクゼーション技法</p> <p>多くの教育活動における児童生徒への支援として活用できる種々のリラクゼーション技法を体験する。また、それらの理論とともに活用に当たっての留意点を理解し、活用における実践力を高める。さらに、教師自らのメンタルヘルスの向上・保持のための一つの技法として、日々の活用法を学ぶ。</p>	
<p>（児童生徒対象）</p> <p>・リラクゼーション</p>	<p>&lt;講座名&gt; : こころとからだをゆるめよう！</p> <p>自分では気付いていない心や体の緊張に気づき、自ら弛めることが出来るようになることを目標とする。心や体が弛んだホッとした感覚を体験的に取り戻すとともに、慢性緊張や過緊張への早期の気づきや対処法を具体的に習得する。</p> <p>※ 実施は児童生徒の状況による。 弛めることの危険性が予測される場合には実施不可。</p>	
<p>（長期研修生対象）</p> <p>・学校心理学</p>	<p>&lt;講座名&gt; : 学校心理学概説</p> <p>学校心理学に関する基礎的知識を理解する。学校心理学の全体像を掴むとともに、学校心理学の 3 本柱であるアセスメント、コンサルテーション、カウンセリングに関する基礎的内容を整理する。</p>	
<p>（長期研修生対象）</p> <p>・児童生徒理解</p>	<p>&lt;講座名&gt; : 児童生徒理解</p> <p>児童生徒理解に関する基礎的知識を理解する。児童生徒理解の全体像を掴むとともに、種々の理解に関するポイントを整理する。</p>	

<p>西山久子</p>	<p>福岡教育大学 准教授</p>	<p>学校心理士・臨床心理士 スクールカウンセラー</p>
<p>講師紹介</p> 	<p>&lt;プロフィール&gt;          留学カウンセラーとして勤務したのち、米国カリフォルニア州にてスクールカウンセラーの資格を取得し、高校で勤務する。その後、帰国し、岡山県の私立高校で専任スクールカウンセラーとして相談室の立ち上げから関わり体制づくりを経験する。          現在は、福岡教育大学教職大学院生徒指導・教育相談リーダーコースにて、主に教育相談・包括的スクールカウンセリング・生徒指導を担当し、学校適応を促進するミドルリーダー養成を中心に活動している。</p> <p>&lt;著作等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『学校における教育相談の定着をめざして』（単著 ナカニシヤ出版 2012年）</li> <li>・『ピア・サポート ひと目でポイントがわかるピア・サポート実践集』（共同編著 ほんの森出版 2011年）</li> <li>・『チャートでわかるカウンセリング・テクニックで高める教師力 第5巻 教師のチーム力を高めるカウンセリング』（分担執筆, ぎょうせい, 80-83 2011年）</li> </ul>	
<p>・体制づくり</p>	<p>&lt;講座名&gt; : <b>学校適応を支える体制づくりの実際</b></p> <p>校内で様々な領域において「体制づくり」が求められています。特別支援教育においても、教育相談や生徒指導においても、またキャリア教育においてもそうした動向がみられます。          参加者の学校の体制をアセスメントし、校内体制に必要な枠組みづくりを検討し、モデルプラン作りを行います。</p>	
<p>・ピア・サポート</p>	<p>&lt;講座名&gt; : <b>学校でのピア・サポートの取り組みー温かい学校風土づくりに向けて</b></p> <p>学級づくり、部活指導、保健委員会などの各種委員会活動および生徒会活動といった学校の様々な場面で活用できるピア・サポートの仕組みを、わかりやすく解説します。特に、他の心理教育プログラムと異なる、個別のテーマに沿った自分のサポート活動のプランニングは、個に応じた社会貢献の場を創るという点で活用できます。互いの支え合いのために、まず自分を理解し、自分が貢献できることを考えることから始めます。</p>	
<p>・チーム援助</p>	<p>&lt;講座名&gt; : <b>チーム援助を活用したケーススタディ</b></p> <p>小・中・高等学校で活用できるチーム援助の在り方を、発達の・組織的視点に基づいて事例検討やロールプレイで学びます。そのうえで、自分の学校で展開できるチーム援助の在り方について、校内体制のアセスメントをもとに計画します。</p>	
<p>・相談室づくり</p>	<p>&lt;講座名&gt; : <b>機能的な教育相談につながる相談室づくり</b></p> <p>相談室作りは、教育相談担当者の取り組む課題の一つであることが多いようです。別室登校の児童生徒などのため、また相談室の組織作りのため、校内でうまく機能する相談室づくりについて、演習形式で一緒に考え、具体的な導入に必要なツールを試作し、実践へ手がかりをつかみます。</p>	

<b>田邊昭雄</b>	<b>千葉県立船橋北高等学校 校長</b>	<b>学校心理士・臨床発達心理士</b>
<b>講師紹介</b>  	<p><b>&lt;プロフィール&gt;</b>          高校の社会科教諭として通信制や新設校など3校で、教育相談・進路相談担当、保健主事、学年主任等として勤務した。その後、県教委の相談機関である「子どもと親のサポートセンター」の教育相談部並びに支援事業部で研究指導主事、主任指導主事として保護者や小中高の子ども達とのカウンセリング、プレイセラピーなどを担当すると同時に嘱託相談員やスクールカウンセラー等の指導にあたった。          また教員・保護者向けの各種研修講座を担当すると同時に学校支援事業で多くの学校へ出向いて教員・児童生徒・保護者への支援に従事した。その間、千葉大学等で非常勤講師としても授業等を担当した。</p> <p><b>&lt;著作等&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『移行支援としての高校教育』（近刊）福村出版、分担執筆</li> <li>・『&lt;タイプ別・段階別&gt; 続 上手な登校刺激の与え方』ほんの森出版、分担執筆</li> <li>・『非行臨床の新潮流—リスク・アセスメントと処遇の実例—』金剛出版、分担執筆</li> <li>・『自閉症・発達障害への対応—基礎から応用へ—』明治図書、分担執筆</li> </ul>	
<b>・カウンセリング ・傾聴</b>	<p><b>&lt;講座名&gt; : カウンセリング面接・傾聴講座</b></p> <p>カウンセリング面接について演習を中心に実施する。内容的には傾聴を中心に行い「聴く」とはどういうことかについて学ぶ。また、「リフレーミング」についての理解も深める。</p>	
<b>・気づきのトレーニング</b>	<p><b>&lt;講座名&gt; : 気づきのトレーニング・気づきのレッスン</b></p> <p>ゲシュタルト療法で使われる気づきのトレーニングについて演習を中心に実施する。「今、ここで」の自分の状態にいち早く気づけるようになることを目的としたトレーニングである。気づきには外面・内面・空想の3領域があるが、そのどこに重点を置くかについて、効果に違いが出てくることについて学び、目的に沿ったトレーニングの実施方法について理解を深める。</p>	
<b>・グループワーク学習</b>	<p><b>&lt;講座名&gt; : グループワーク学習の実例</b></p> <p>グループ全員参加による共同作業を中心に、一つのを成し遂げていく共同学習について体験学習を中心に実施する。幾つかのワーク教材を体験しながら、自作教材を作成する際の留意点などにも触れる。</p>	
<b>・ピア・サポートトレーニング</b>	<p><b>&lt;講座名&gt; : ピア・サポートの理論と実例 ・ピア・サポートトレーニング</b></p> <p>同年代であったり、同じ様な体験をしたりという同質性の高い者同士が、相互に援助しあう体制づくりについて、体験的に理解する。特にピア・プレッシャー等注意しなければならぬ問題についても十分に触れる。</p>	

今西一仁	高知県心の教育センター 指導主事	学校心理士
<p>講師紹介</p> 	<p>&lt;プロフィール&gt;</p> <p>24年間の高等学校勤務（内16年間は教育相談担当）ののち現職。現在、相談業務を担当しながら、人間関係づくり、校内支援体制づくり、進路支援を中心に、小・中・高等学校への学校支援にかかわっている。特に、平成21年度からは、高等学校を対象として、OJTを中心に生徒支援コーディネーター養成研修を実施している。</p> <p>&lt;著作等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『紙上ゼミナールで学ぶやさしい交流分析』（ほんの森出版、2010年）</li> <li>・『学校心理学に関する研究の動向 学校における進路面の援助に関する研究を中心に』（教育心理学会年報 No. 49、2010年）以上 単著</li> <li>・『学校心理士の実践中学校・高等学校編』（学会連合資格「学校心理士」認定運営機構企画・監修、北大路書房、2004年）分担執筆</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒理解</li> <li>・関係性</li> <li>・交流分析</li> </ul>	<p>&lt;講座名&gt; : <b>子どもと教師との関係性の理解を通したかかわりの心理学</b></p> <p>だれかを理解しようとするとき、自分自身と切り離して、相手のことを全く客観的に理解することはできません。その点「児童生徒理解」は、理解しようとする教師としての自分と理解の対象となる相手の児童生徒との関係性についての理解といえます。本講座では、交流分析の理論を用いて、自分への気づきの経験を通して、相手のあり方に気づくという関係性の理解をもとにしたかかわり方について、講義と演習を中心に学習していきます。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内支援体制づくり</li> <li>・教育相談コーディネーター</li> </ul>	<p>&lt;講座名&gt; : <b>校内支援体制づくりの理論と実際</b></p> <p>支援システム、支援サイクル、コーディネーターの3つの点から、各学校の実態に応じた校内支援体制づくりについて検討します。特に、コーディネーター担当教員の校内での動きに焦点を当て、R（調査）V（ヴィジョン）P（計画）D（実践）C（評価）A（改善）のサイクルの中でどのように考えて動いていくか、演習形式で研修を行います。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム支援</li> <li>・コーディネーター</li> </ul>	<p>&lt;講座名&gt; : <b>チーム支援の理論と実際</b></p> <p>校内における支援体制がまだ確立していない段階でもチーム支援を行うことが必要になることがあります。ここでは、チーム支援会議の場面に焦点を当て、コーディネーター役として同僚と一緒にどのようにチームを作り、運営していくか、そのスキルを学びます。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Q-U</li> <li>・アセス</li> <li>・学級集団</li> <li>・児童生徒理解</li> </ul>	<p>&lt;講座名&gt; : <b>Q-U、アセスによるアセスメントを用いた学級集団づくり</b></p> <p>Q-U、アセス等を、学級集団や個人の理解を行うアセスメントツール、それをもとに教員集団の共通理解を促進するコミュニケーションツール、年間を通した支援サイクルの中で学級集団づくりについて検討するサイクルツールという3つの活用法に基づいて、演習形式で研修を行います。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・カウンセリングスキル</li> <li>・面接</li> </ul>	<p>&lt;講座名&gt; : <b>学校で使えるカウンセリングスキル</b></p> <p>学校においては、日常的に決められた時間や場所で面接を行うことが難しいことがよくあります。教室、廊下での立ち話や呼び出し面談等、学校場面で使えるカウンセリングスキルを学びます。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路支援</li> </ul>	<p>&lt;講座名&gt; : <b>学校における進路支援の理論と実際（主に中学・高等学校対象）</b></p> <p>進路ガイダンス授業（集団への支援）と進路カウンセリング（個別・グループ支援）を中心に、進路選択・進路決定の過程で、生徒（主に中学生・高校生を対象として想定する）が直面する課題についての支援について、講話・演習を行う。</p>	

都丸けい子	平成国際大学 講師	学校心理士・臨床心理士
<p>講師紹介</p> 	<p>&lt;プロフィール&gt; 茨城県・千葉県・埼玉県で1つの適応指導教室、2つの小学校、3つの中学校に相談員およびスクールカウンセラーとして勤務経験がある。また、茨城県で保健師と連携し、虐待予防の親グループミーティングの活動に従事している。</p> <p>さらに、現勤務校では、教員養成に関わりながら学生相談を担う。幅広い年代の子どもたちへの発達の支援を直接・間接的に行いながら、子どもたちに関わる周囲の大人（教師・保護者）への支援やスキルアップに取り組んでいる。</p> <p>&lt;著作等&gt; ・『事例から学ぶ児童・生徒の指導と援助』 ナカニシヤ出版・分担執筆 ・『中学校教師の生徒との関係における悩みと成長・発達に関する研究』 博士論文</p>	
<p>・教師ストレス</p>	<p>&lt;講座名&gt; : 援助者のストレスとその対処</p> <p>日常的に子どもたちを支援する教職員の役割は重要である。だからこそ、その負担についても配慮が求められる。そこで、子どもたちを支援する側の教師がストレスを抱えた際の対処や必要なサポートの種類や効果的な活用過程について学ぶ。また、個人で工夫できる点および教員集団で支え合うためのポイントについて、小集団での話し合いも交えながら理解を深める。</p>	
<p>・問題行動 ・アセスメント</p>	<p>&lt;講座名&gt; : 子どもの気になる行動への関わり方ーアセスメントのポイントー</p> <p>教員は日常の教育活動の中で、子どもの様々な気になる行動をキャッチしている。各先生方の経験した事例を共有し合いながら、気になる行動の理解の枠組み（アセスメントのポイント）を学び、気になる行動を示す子どもについての理解を深める。さらに、児童生徒の悩みや不安を解消し成長へと結びつけるために、気になる行動に関わる際の留意点を確認する。</p>	
<p>・トラウマ ・心理教育</p>	<p>&lt;講座名&gt; : トラウマの心理教育</p> <p>トラウマ体験をした子どもたちへの支援を行う際、支援者自身がトラウマに関する心理教育について理解しておくことは必須である。そこで、トラウマ体験をした人々の示すトラウマ反応について確認し、さらに今後を見据え、中・長期的視点からトラウマ反応の継続やストレス関連障害との関わりについて学ぶ。※実習⇒簡便なチェックシートの活用、事例検討：外部機関との連携について</p>	
<p>・カウンセリング ・傾聴</p>	<p>&lt;講座名&gt; : 日々の教育実践で役立つカウンセリング技法</p> <p>子どもや保護者の話を適切に聴く能力は、面談を効果的にするだけでなく、信頼関係の形成にも役立つ。そこで、傾聴や質問技法といったカウンセリング技法を取りあげ小グループで体験的に学ぶ。</p>	

金山健一	県立広島大学 准教授	学校心理士・臨床心理士
<p>講師紹介</p> 	<p>&lt;プロフィール&gt;          中学校教師として3校に勤務し、主に生徒指導、教育相談を担当してきました。その後、北海道の大学で勤務し、今年から広島でカウンセリング・心理学等を担当しています。</p> <p>かなり荒れた中学校に赴任し、教員同士のチーム支援で学校を再生した経験から、どんなに荒れた学校、学級でも立ち直ることが出来ると確信しています。教師一人の力では学校・学級再生は困難です。&lt;対症療法&gt;ではなく、&lt;予防的な生徒指導・学級経営&gt;を提案します。</p> <p>&lt;著作等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『軽度発達障害へのブリーフセラピー』（金剛出版・分担執筆、2006年）</li> <li>・『Beyond Technique in Solution focused Therapy』Eve lipchik(著) ブリーフセラピーの技法を越えて（翻訳・金剛出版・分担執筆、2010年）</li> <li>・『チャートでわかるカウンセリング・テクニックで高める教師力 第2巻 気になる子と関わるカウンセリング』（編者、ぎょうせい、2011年）</li> </ul>	
<p>・生徒指導</p>	<p>&lt;講座名&gt; : <b>明日からすぐ使える生徒指導の技</b></p> <p>モグラたたきの生徒指導は、もうやめませんか。対症療法では、先生方も疲弊してしまいます。予防・開発的な生徒指導・学級経営では、様々な指導のプログラムを教育課程に位置づけて対応していきます。学活・総合学習・HR・道徳で、すぐ使える生徒指導の技をご紹介します。今回の講座では、非行・いじめ・学級崩壊・携帯電話問題等の効果的な対応をお話しします。皆さんと一緒に学べることを楽しみにしています。</p>	
<p>・いじめ ・心理教育</p>	<p>&lt;講座名&gt; : <b>心理教育による「いじめ防止プログラム」</b></p> <p>校長先生が全校集会で「いじめは止めよう」と訴えても、急にいじめはなくなりません。子どもの視点からいじめ問題を問い直し、いじめのない&lt;学級文化&gt;&lt;学校文化&gt;づくりの実践方法をお話しします。個々のいじめへの対応はもちろん大切ですが、それ以上に、いじめがおこらない学級づくり・学校づくりが必要です。いじめ防止プログラムでは、生徒会活動・学級会活動を中心に展開しますので、明日からでもすぐ使えるプログラムです。</p>	
<p>・校内研修 ・不登校 ・非行</p>	<p>&lt;講座名&gt; : <b>校内研修で使える不登校・非行の事例検討法</b></p> <p>校内研修ばかりでなく、通常の学年会等でも使える事例検討の方法をお話しします。事例提供者に負担がなく、参加者が主体的に事例検討でき、しかも、これからどのように事例に関わればよいのかが具体的にわかる方法です。インシデント・プロセス法をベースに改良し、簡単に、しかも有効に、解決方法をチームで検討することができます。</p>	
<p>・インターネット問題 ・携帯電話問題</p>	<p>&lt;講座名&gt; : <b>最新、子どものインターネット・携帯電話問題</b></p> <p>大人が知らない最新のインターネット・携帯電話問題の情報を提供し、その対応策をお話しします。ネットいじめ・なりすましメール・リクエスト写メール等を、我々大人はなかなか気づくことができません。インターネット・携帯電話に絡んだ、性被害も拡大しています。そこで、インターネット・携帯電話の指導を、学校でどのように対応したらよいのかをお話しします。</p>	

中原美恵	東洋大学 教授	臨床心理士・心理カウンセラー
<p>講師紹介</p> 	<p>＜プロフィール＞          公立教育相談機関において相談支援および現職研修を担当した後、平成7年より千葉県スクールカウンセラーとして、小・中・高等学校における相談支援や教育行政のアドバイザーを務める。          平成13年、大学教員として教育・研究の傍ら、幼稚園、保育園の保護者支援、保育者支援に携わり、平成18年からは、現職において幼稚園教諭・保育士の養成に関わる。子育て困難に陥る家庭の支援、中でも心理教育的支援の重要性に着目し、実践的研究に力を注ぐ。</p> <p>＜著作等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『子育て支援カウンセリング』（分担執筆）図書文化社</li> <li>・『発達と臨床の心理学』（分担執筆）ナカニシヤ出版</li> </ul>	
<p>・シェアリング</p>	<p>＜講座名＞ <b>：みんなで語って、次の一歩を考える</b></p> <p>ちょっと気になる子、心に引っかかっている事柄など、日々の教育活動でのもやもや感を共有し、お互いに少しすっきりして、明日の取組みのヒントが浮かぶ—そんな時間が実はとても大切である。「語る」、「分かち合う」ことの意味をともに実感できるような演習を行いたい。</p>	
<p>・保護者支援</p>	<p>＜講座名＞ <b>：養育困難家庭とその支援 一子どもの育ちを守るために—</b></p> <p>さまざまな事情から子どもの養育に困難を生じている家庭を発見し、支援する視点は、今日の子どもの豊かな育ちを支えるために重要である。しかし、かかわりが難しい事例も多く、教師が無力感を抱く連鎖も生じやすい。事例理解と支援の方向を探り、支援者のエンパワーを図る事例検討を行いたい。</p>	

小嶋まき	八戸大学	学校カウンセラー
<p>講師紹介</p> 	<p>〈プロフィール〉  1973年4月から2009年3月まで青森県立高校で養護教諭として勤務。最後に勤務した青森県立弘前高等学校では援助チェックシートを活用した事例検討会を開くなど教育相談に力を注ぎ、相談室（保健室）登校生徒の学習支援体制の整備に努めた。  現在、八戸大学非常勤講師、青森県スクールカウンセラー、青森県初任者研修指導員を務めている。</p> <p>〈著書他〉  学会での発表：『危機教育に果たす養護教諭の役割』（日本教育心理学会 2006）、『教育現場から見た事例研究の課題』（日本教育心理学会 2007）、『効果的な保健室（相談室）登校生徒への学習支援』（日本学校教育相談学会 2008）</p>	
<p>・面接の仕方</p>	<p>〈講座名〉：面接の仕方—解決志向的アプローチ—</p> <p>子どもあるいは保護者と面接をするとき、知らず知らずのうちに指導の押しつけになっていることはないだろうか。解決の「答え」を持っているのは教員ではなく子どもあるいは保護者である。面接相手が持っている自ら解決する答えを引き出す、教えてもらうスタンスで話を聴くと、より短期的により効果的により効率的に解決することが多い。その面接の方法を演習を交えてお伝えしたい。</p>	
<p>・構成的グループエンカウンター</p>	<p>〈講座名〉：構成的グループエンカウンター</p> <p>コミュニケーション能力が低いと言われる現代の子どもに、人間関係の構築をどのように援助していけばよいのか。学校不適応を予防する意味合いからも、子ども同士の作業やゲームを通じて他者理解と自己理解を深めることを目的に構成的グループエンカウンターを紹介する。先生方が特別活動、総合的学習の時間、学校行事、また保護者会等で是非実施していただくために、実施する際のポイントをお伝えしたい。</p>	